

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 27 年 6 月 9 日発行

第 11 号

発行人 校長 鈴木史良

宇宙一の運動会を enjoy

—— “一生懸命がかっこいい”運動会、走った、跳んだ ——

6月7日(日)、ウスター市陸上競技場で第28回チューリッヒ日本人学校運動会を実施いたしました。所期の目的は2つあり、体育的な集団行動を通して、児童生徒に運動することの楽しさや喜びを味わわせること、もうひとつは「スイスに在住する日本人の運動会」として、健康の保持増進を図るとともに、親睦を深めることです。

全日制と補習校の園児・児童・生徒が参加する運動会です。普段、現地校やインター校に通う子どもたちにとって、「運動会」というスポーツイベントへの参加は日本独特の体育的な集団行動を体験することであり、それはまさに日本人の感性、思考、精神、文化そのものを味わうことにつながると言っても過言ではないで

しょう。また、日本でも昔から学校というものは、その地域の文化の象徴的な存在として、地域の人々から大事にされてきたものです。このスイスという国にあって、日本文化を発信する場、日本人が日本人としてのアイデンティティを確認できる場、なつかしいふるさとの運動会の雰囲気を感じることのできる場、そういう場としての日本人学校運動会の実現を目指しました。

当日は真っ青な空のもと、子どもたちが赤組、白組にわかれてフィールドに整列し、開会式が始まりました。来賓の二階堂公使様からご祝辞をいただき、優勝杯が返還された後は赤組、白組代表による選手宣誓です。両代表とも、優勝を目指して団結し、全力で自分のチームを引っ張っていくぞ！という気迫にあふれていました。その後の準備運動はラジオ体操第一です。日本人としての定番の準備運動を子どもたちの世代に伝えます。

いよいよ最初の競技、5年生以上の100m個人走がスタートしました。ホームストレートを全力で疾走していく姿がとても“かっこよかった”です。続いて行われた低学年～3年生の玉入れ。赤籠、白籠に向かって放られた無数の赤玉や白玉が青空に映えました。パン食い競争ではひもでつられたパンが開いた口の周りをくるくるまわり、なかなか口で捉えるのが難しかったようですが、この種目のおもしろ味でもあります。大人の参加者も多く、購入したパンがすべてなくなるほどの人気でした。

次は、フィールド内で4年生以上の棒引きが行われました。中央におかれた竹棒を奪い合い、自分たちの陣地までもつてくるとポイントになります。パワーとスピード、勇気と団結力が問われる競技で、子どもたちも燃えました。



大空に乱舞する赤玉



パンがとれたぞ、さあ走れ

幼児、園児による風船取りにはごほうびのお菓子袋がついていました。それをもってお母さんのもとに駆け寄る様子がとてもかわいらしかったです。低学年、中学年による元気いっぱいの60m走をはさんで行われたかけっこでも、40mを見事走り切ることができました。

午前の部の最終種目は綱引きです。まずは大人が行い、次に子どもたちが赤白チームに分かれて綱を引き合いました。見ていても思わず力が入る競技でした。フィールド内にその余韻が残る中、アトラクションとして日本伝統芸能愛好会の皆様による盆踊りが披露されました。色とりどりの浴衣が緑の芝生に映え、最後には参加者も加わって東京音頭を踊って楽しみました。

12時10分、楽しみにしていたお弁当の時間になりました。家族や友達とお弁当を囲んで歓談しながら食べる光景は、これも大事な運動会のシーンとして素晴らしいことです。これからも大切にします。

さて、午後1時から午後の部開始です。フィールド内には和太鼓が用意され、まず補習校の生徒たちによる迫力ある力強い演奏が披露されました。続いて全日制の児童生徒による応援、エール交換と和太鼓の演奏が披露され、会場はひとときわ日本ムード一色に包まれました。補習校、全日制の子どもたち共、練習の成果を十分発揮できたと思います。子どもたちの一生懸命さが見ている多くの人々の心を打つ、立派な演奏・演技でした。

終わると次は低学年、中学年によるペアの借り物競争が始まりました。借り物には眼鏡や帽子などもあり、来賓の皆様が子どもたちに手を取られて借り出されるシーンもありました。

次は高学年以上の障害物競走でした。題して「みんなで大掃除」。ほうきやちりとり、雑巾がけなどが組み合わさった競技で、技と体力が必要な競技でした。

低学年～3年生の最後の種目、大玉運び。子どもたちが一団となって赤玉、大玉を運ぶ様子はなんともほほえましい。赤組、白組とも抜きつ抜かれつの大接戦を繰り広げました。

運動会の最後を飾るのはリレーです。はじめに大人によるチーム対抗リレーが行われました。若い人やお父さん、お母さんの迫力ある“雄姿”を見せてくれました。続いて、この運動会の最終種目、赤組、白組の優勝を左右する、4年生以上の子どもたちによる赤白対抗リレーが行われました。チームのために全力疾走し、つぎつぎにバトンを受け渡していく子どもたち。走ることが得意な子どもも、不得意な子どもも、ここを一つにし、優勝を目指して自分の全力を出し切っている姿に感動しました。

閉会式では、赤組の優勝が発表され、井上運営委員長から代表に優勝杯を授与していただきました。赤組は大喜びでしたが、敗れた白組も充分達成感を感じたことでしょう。全日制、補習校、普段は一緒に練習することができない子どもたちがひとつになってつくりあげた運動会。所期の目的を果たすことができました。この運動会の運営を支えてくださった皆様、ボランティアの皆様にご心より御礼申し上げます。



勇ましく響く和太鼓の音



抜きつ抜かれつの大接戦